
貧酸素情報

鹿児島県水産技術開発センター
 平成25年 9月4日(水)

鹿児島湾 貧酸素情報 No.1

[1] 9月3日の調査結果

(1) 貧酸素水塊の状況

鹿児島湾奥部の竜ヶ水沖、重富沖の水深30m層では、溶存酸素量が4.0mg/lを下回っていました(下図参照)。

(2) 赤潮生物の出現状況

湾奥部は微細藻類による濁りがありました。また調査全域で渦鞭毛藻類の^{ノコギリ}モネタム属(コツレツリ, シゲモイダス)を2~126cells/ml確認しました。

有害種は、アヘツグマ アソガが1ヶ所で1cell/ml確認されましたが、シヤナリ マリナは確認されませんでした。

(3) 海況

表層水温は、湾奥部で26.7~27.7℃と平年同時期よりやや低め、また、塩分については23.0~30.4、透明度は2.0~4.5mとともに平年同時期より低めとなっています。

水温：湾奥部平均 27.3℃ (平年値 28.0℃)

塩分：湾奥部平均 26.7 (平年値 30.9)

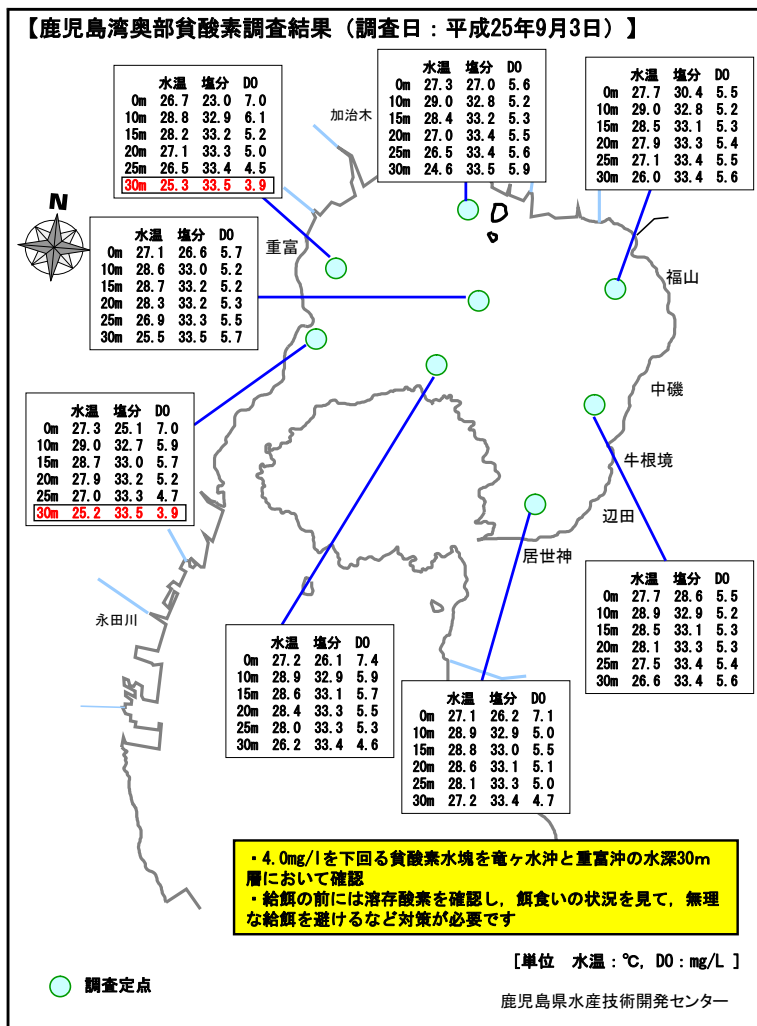
透明度：湾奥部平均 2.4m (平年値 6.5m)

(平年値は平成15~24年の9月の平均値)

[2] 今後の貧酸素水塊の予想

今回の調査では、2ヶ所の30m層で溶存酸素量が4.0mg/lを下回っていました。

今後、表層水温の降下によって起こる鉛直循環が活発となる10月下旬までは、中層付近で貧酸素状況が発生して継続する可能性があると思われます。



(注意事項)

- ・ 給餌の際、魚群が遊泳すると、貧酸素層の海水が表層まで浮き上がるおそれがあります。
- ・ 過去、溶存酸素が4.0mg/lを下回った状況での給餌で、へい死事故が発生した事例がありますので、注意が必要です。
- ・ 給餌の前には、必ず溶存酸素量を確認し、餌食いの状況を見て、無理な給餌を避けた方がよいでしょう。

・ 4.0mg/lを下回る貧酸素水塊を竜ヶ水沖と重富沖の水深30m層において確認
 ・ 給餌の前には溶存酸素を確認し、餌食いの状況を見て、無理な給餌を避けるなど対策が必要です

赤潮情報(携帯電話) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>
 赤潮情報(パソコン) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>